２０２２年１１月１３日（聖霊降臨後第２３主日、特定２８、C年）

牧師メッセージ

「背後には神のご計画がある」

（ルカによる福音書21:5-19）

司祭ヨセフ太田信三

弟子たちを含め、人々は壮麗な神殿に目を奪われ、この神殿こそ神がとこしえに住まう場所だと思い込んでいました。しかし、神殿に見惚れる人々に、主イエスはこの神殿が跡形もなく崩れ去ることを告げます。人々は主イエスの言葉に驚き、「しるし」を求めます。その求めに対する主イエスの応答は、「惑わされることがないように」という注意から始まるものでした。

キリストを信じる者の特徴は「惑わされない」ことです。イエスを名乗るものが多く現れて惑わそうとも、戦争や争乱の噂が飛び交っても怯える必要はありません。なぜなら、「こういうことが起こるに決まっているから」です。それらは神の計画のうちなのです。主イエスの目は、神殿の崩壊の背後にも神の計画を見ています。神の計画であれば、その計画の目的は、人類の救いにあるのですから、どのようなことが起きてもその先には救いが用意されています。それゆえ、惑わされることはないのです。

今日の福音は、いずれ「恐ろしい現象や著しい徴が天に現れる」終末についても語ります。しかし、主イエスは、「これらのことが起こる前に」という一文によって、終末に吸い寄せられた読者の目を、「今」へと引き戻します。来たるべき日に心奪われるのではなく、「今」に集中して生きることが大切だということです。

この「今」とは、「わたしの名のために」迫害される「今」だと主イエスは語ります。迫害という厳しい状況こそ、「証しの機会」となるのです。迫害と言われても、ピンとこないかもしれません。しかし、この世界が悪意や疑いに満ちているときこそ、その出来事の背後に神のご計画を見、希望を証しすることが、クリスチャンにとって大切な使命の場となる、ということです。しかも、その場所に立つ上での最良の準備は、「準備をしないこと」だと、主イエスは言われます。必要な言葉と知恵は神から与えられます。なぜなら、わたしたちの髪の毛一本すらなくなることを、神は望まれないからです。

髪の毛一本すら愛おしみ、人を愛し抜かれる神の愛をいただき、自らも「今」を愛に生きようとすること、ただそれだけが「今」すべきことです。聖書が終末を語るのは、脅えさせるためではなく、神の計画が救いにあると知り、「今」に集中して生きることができるようにするためです。神の思いに信頼し、「今」、愛に生きるのか。それとも、神殿に象徴される目に見えることに右往左往するのか。まずは、今注がれている神の愛を全身に受けたいと願います。